



日本スーパーマーケット協会

平成25年7月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

① 売上高・前年同月比

| | 全 店 | | | 既 存 店 | |
|-------|---------------|--------------|----------------|---------------|----------------|
| | 売上高 | 構成比(前月) | 前年同月比(前月) | 売上高 | 前年同月比(前月) |
| 総 額 | 50,951,236 万円 | 100.0% | 101.3%(102.8%) | 49,330,541 万円 | 99.8%(101.0%) |
| 食 料 品 | 42,503,186 万円 | 83.4%(82.8%) | 102.0%(102.4%) | 41,078,362 万円 | 100.0%(100.4%) |
| 農 産 | 6,176,125 万円 | 12.1%(12.1%) | 104.8%(101.1%) | 6,009,360 万円 | 103.0%(99.1%) |
| 水 産 | 4,242,227 万円 | 8.3%(8.0%) | 101.9%(101.8%) | 4,081,296 万円 | 99.7%(99.5%) |
| 畜 産 | 4,671,401 万円 | 9.2%(9.4%) | 103.5%(104.1%) | 4,514,936 万円 | 101.2%(101.9%) |
| 惣 菜 | 4,501,865 万円 | 8.8%(8.5%) | 103.3%(103.4%) | 4,334,012 万円 | 100.9%(101.0%) |
| 日配食品 | 9,558,484 万円 | 18.8%(18.8%) | 101.3%(102.6%) | 9,220,954 万円 | 99.4%(100.6%) |
| 加工食品 | 13,353,084 万円 | 26.2%(26.0%) | 100.3%(102.2%) | 12,917,804 万円 | 98.6%(100.3%) |
| 生活関連 | 3,151,052 万円 | 6.2%(7.1%) | 98.8%(104.9%) | 3,075,488 万円 | 98.2%(103.7%) |
| 衣 料 品 | 1,665,652 万円 | 3.3%(4.0%) | 94.0%(104.0%) | 1,641,369 万円 | 94.2%(103.4%) |
| そ の 他 | 3,631,346 万円 | 7.1%(6.1%) | 99.6%(104.0%) | 3,535,322 万円 | 100.5%(104.3%) |

② 数 値

| | | | |
|--------|----------------------------|-------|-----------|
| 全店総売上高 | 50,951,236 万円 | 店 舗 数 | 4,426 店舗 |
| 総売場面積 | 8,561,606.2 m ² | 総従業員数 | 225,858 人 |

| | | | |
|-------------------------|------------------|------------------|------------------------|
| 店舗平均月商 | 11,511.8 万円 | 平均客単価 (前年同月比) | 1,776 円 (99.9%) |
| 月間m ² 売上(前月) | 6.0 万円 (5.9 万円) | 平均店舗面積 | 1,934.4 m ² |
| 月間坪売上(前月) | 19.7 万円(19.4 万円) | パート比率(前月) | 77.0%(76.7%) |

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 7月は、前年との曜日偏差で日曜日が一日減したため、既存店前年比を割った
- ・ 梅雨が例年より早く明け、気温上昇に伴い夏物商材が好調に推移したものの、中・下旬の戻り梅雨やゲリラ豪雨の影響で、夏物商材の動向が苦戦した
- ・ 天候不順の影響により野菜相場が上昇し、青果の売上は既存店前年比を超えた

《 商品動向 》

○ 農産

- ・ 野菜は相場安の流れから一変、入荷減、相場高の影響で売上は上昇した
- ・ 相場高の影響で、カット野菜の動向が良かった
- ・ 果物では、梅雨明け前後での高温の影響で、すいかの動向が好調だった

○ 水産

- ・ 早期梅雨明けの影響で、涼味商材（刺身・海藻・たこ など）の動きが良かった
- ・ うなぎは、国産長焼中心に動向が良かった
- ・ 生かつお、生あじは、入荷量が増えて大幅に売上を伸ばした
- ・ 塩干では、しらす干が豊漁で相場が安く、売上作りに貢献した

○ 畜産

- ・ 焼肉中心に牛肉の動きが良かった。また、関連商材のタンや内臓肉の動きも良かった
- ・ 豚肉は、冷しゃぶ用と味付け焼肉用の動向が好調だった
- ・ 加工肉は、ウインナー・フランクの動きが良かった

○ 惣菜

- ・ 月間通して米飯の動きが良かった
- ・ 前半の気温上昇に伴い、やきとり、唐揚げの動向が高まったが、中・下旬では涼味麺の動向が鈍かった

○ 日配・加工食品

- ・梅雨明け後の猛暑で盛夏商材（アイス・冷麺・飲料・デザート など）が好調に推移した。中旬以降の戻り梅雨の影響で、ざるそば・冷やし中華・ところてん・冷やっこ豆腐などの動向が鈍った
- ・前半の気温上昇に伴い、涼味商材中心に、動向が良かった
- ・熱中症対策として、スポーツドリンクが好調に推移した。また、炭酸飲料の動向も良かった

○ 「土用の丑」について

- ・当日は、国産うなぎ長焼（1,580円～1,980円）を中心に動向が良く、国産の構成比が上昇した（国産構成比77%～90%）
- ・昨年と同日比較すると、昨年は水・木・金に対し、本年は土・日・月のため3日間で比較すると前年を上回る結果となった
- ・うなぎの価格高騰を受け、豚肉蒲焼きを展開し動向は良かった

○ 「サマーギフト」について

- ・上旬の気温上昇に伴い、ビール、ゼリー、素麺、そばなどの動向が良かった。また、生鮮品では、すいか、生肉ギフト、ハムギフトの動向も良かった
- ・カタログギフト、店頭ギフトの動きが良好

以上